

七面山

〔裏見寒話^三山河〕七面山

高山にして、甲府、駿河、伊豆、安房など七面見ゆる。七の面有、蛇地中に住むといふは非なりといふ、十月會式には、近國の老若七面に詣づ、絶嶮岨にして、辛うじて上るといふ、

〔甲斐名勝志^四巨麻郡〕七面山 身延山の奥の院と云、身延山より三里餘有七面明神の祠あり、山上に池有、七面明神の縁記あり、略之、一説に、七面明神は江州坂本の山王七社權現を遷し祭る、故に七面の名有と云、

〔甲斐國志^{八十七}佛寺〕巨摩郡西河内領

七面山 祀七面明神爲護神、身延本院ヨリ西ノ方行程貳百八町ニ在リ、山峯連綿シテ、中間ニ赤澤村十萬部ト云坊アリ、朝日ノ祖師ト云日蓮ノ像ヲ安ゼリ、自是拾八町下リ、春氣川ヲ濟ル、圖經ニ羽良橋ト名ヅケリ、小繩^{高住}赤澤村ノ域ニテ三處ニ分レテ叢居アリ、是マデ三里、皆五十町積リナリ、川向ヒ一ノ鳥居ヨリ登リ五拾町^略○中日孝、七面大明神、縁記見于圖經、寛文六年元政ガ深草山七面大明神縁起曰、七面山在身延峯之西春氣川之上、乃吉祥大垂迹大明神示現之靈區也、山閉鬼門而開七面、故名焉、相傳、金輪際湧出而黃金所成矣、絶頂有池、^略○下二書說奇瑞コト巧ニシテ、其趣ハ大氏同ジ、池水ハ春氣川ノ起源、池大神ハ雨畑村、所祀ナリ、身延鏡ニ、七面社ハ山ノ七分ニ在リ、此ヨリ貳拾町登リ、奥池トテ神靈ノ所鍾ナリト云々、北麓ト云路ハ、早川ノ方ヨリ登ル、是モ五拾町ナリ、一ノ鳥居ノ傍ニ僧坊一字アリ、影向石、社ト云、此ニモ七面明神ヲ祀レリ、巨石アリテ名之、夫ヨリ本社マデハ八町ナリ、

鳳凰山

〔甲斐名勝志^四巨麻郡〕鳳凰山 地藏が嶽、藥師が嶽と云山有て、鳳凰山と峯つゞけり、是を三嶽と云、麓の柳澤と云所に宿りて登る、山中に一夜伏て翌日又柳澤に歸る、諏訪の湖水見へて佳景なり、絶頂の岩の上に、黄金にて鑄たる、三寸許りの衣冠の像あり、鳳凰權現と云、是奈良の法皇の御影